

国語科学習指導案

〇〇高等学校
指導教諭 〇〇〇〇
担当教諭 〇〇〇〇

日時 平成〇〇年 〇月〇日(〇) 第〇時限

場所 〇〇高等学校 第一学年〇組教室

学年・組 第一学年〇組(男子〇名・女子〇名 計〇〇名)

一、単元名・指導教科書 『伊勢物語―筒井簡』(〇〇 国語総合 〇〇)

二、単元目標

- ・ 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。
- ・ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。

三、単元の展開計画

第一時 『伊勢物語』の文学的知識を身につける。和歌のリズムに注意しながら音読する。

第二時 幼なじみの二人が結婚するまでの経緯を理解する。

第三時 和歌にこめられた妻の思いを通して、愛のかたちと男女の心の動きを読み取る。

第四時 その後の「男」と「高安の女」との関係について理解する。

第五時 現代版の伊勢物語を用いて、歌物語の世界について実感をもって理解する。【本時】

四、教材観

『伊勢物語』は「歌物語」の代表作であり、中心となる和歌も分かりやすい内容で、登場人物の心情が捉えやすい作品である。特に『筒井簡』の章は、人間関係を把握する楽しさが感じられる教材であり、そこで取り上げられている五首の和歌を詠み味わうことによって、登場人物の心情がより深く感じられる展開になっている。和歌の解釈から、愛を確認する男女の心情と当時の風習を知り、また自分の立場に引き寄せて想像させ、歌物語の描く世界を感じ取らせたい。

五、生徒観

省略

六、指導観

本時では、登場人物の立場になって短歌創作を行う。自分なりの心情表現を行い、また登場人物の心情と比較することで、本文の内容をより深く生徒に理解させたい。

七、単元の評価規準

【関心・意欲・態度】 本文の内容理解し、登場人物の行動から人間関係について考え、自分なりの考えを持つとしている。

【読む能力】 和歌が当時の人々にとってどのような意味をもっていたのかについて理解し、歌に込められた心情を捉えることができている。

【読む能力】 登場人物の心情を考え、そこから発展し、人間関係について自分の意見を表現できている。

八、本時の目標（第五時）

『伊勢物語―簡井簡』の文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むことと、短歌を創作することを通して、登場人物の人間関係や心情について考えたり、表現したりすること。

九、本時の学習過程

時間	区分	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び理解の 不十分な生徒へのてだて等	評価規準・評価方法
五分	導入	1. 本文を音読する。 【指名発表】	1. 発表者以外の生徒は本文を黙 読しながら前時までの内容を 思い出すように説明する。	・本文の内容を理解し、登場人物 の行動から人間関係や心情につ いて考え、自分なりの考えを説 明しようとしている。 【関心・意欲・態度】 （行動の観察・提出物による 記述の確認）
三五分	展開	1. 本時のねらいを理解する。 2. 現代版の伊勢物語を用いて、登 場人物の心情を現代に生きる 我々の状況や心情に引き寄せ て考える。 【教師による範読を聞く！ 個人で記述→発表】 3. プリント前半を用いて短歌創作 を行う。 4. プリント後半を用いて生徒同士 で話し合う。	1. 創作すること等古文の特徴を とらえ、言葉の意味を正確に とらえて理解している。につ いて、生徒が取り組み易いよ う丁寧に説明する。 2. 吹き出し部分に登場人物のせ りふを想像して記入させる。 （個人作業） 2. 作業が進んでない生徒には前 時までのノートやプリントを 確認させる。 3. 「女」の立場になったつもりで 短歌創作を行う。 3. 短歌創作が困難な様子であれ ば、三十一文字にこだわらな い七五調で作成させる。 4. 机間指導を行い、作業が進ん でない生徒たちに対してヒ	・短歌の創作を通して、登場人物 の心情を現代に生きる我々の状 況や心情に引き寄せて考えるこ とができています。 ・登場人物の心情を考え、そこか ら発展して、人間関係について 自分の意見を表現できている。 【読む能力】 （行動の観察・提出物による 記述の確認）
十分	まとめ	1. 創作した短歌・協議の内容を 発表する。 【指名発表】	1. 創作活動が早くできあがった 生徒に積極的に発表するよう に励ます。	